



新たな住民主体のまちづくりへ

十王地区コミュニティ設立の説明会

十王地区でのコミュニティ組織づくりが積極的に進められています。昨年6月に第1回の設立準備委員会が開催されて以来、多くの事が検討されました。住民への説明会も開催され、今後は詳細について議論されます。

現在、十王地区には区長制度があり、区長・副区長が行政と住民のパイプ役となって、地域課題の解決や連絡調整にあたっています。

一方、合併前の日立市には、22の地区ごとに組織された学区コミュニティの会が、環境、地域福祉、防災、防犯、青少年育成、子育て支援など様々なテーマで地域活動を展開しています。

合併時に、十王地区についてもコミュニティ組織を立ち上げることが了承されており、これまで設立準備委員会は10回の会議を開催しながら18年3月の立上げを目途に、積

極的に準備を進めています。

11会場で住民説明会

昨年11月からは設立準備委員会が中心になって、町内の11会場で住民向けの説明会を開催してきました。日立市のコミュニティ活動の状況、設立準備の経過や概要、会則や組織などの(案)が報告されました。



多くの意見が出た住民説明会

参加者からはコミュニティ組織や活動が分からないこともあり、大小様々な疑問や意見が出されました。

働き世代の多い地域では、参加協力するのは当然という雰囲気でしたが、会合の頻度や責任を果たすことの負担が、どの程度になるのか心配する声が多かったことが印象に残りました。

主な意見や質問

- ・組織づくりのための今後の計画はどうなっているのか。
- ・コミュニティ組織と支部、町内会の関係はどうなるのか。

・コミュニティと自治会の役職は兼務できるのか。支部長になるとコミュニティの役職が自動的に回ってくることがあるのか。

・専門部が多すぎるのではないのか。専門部などの会合の頻度や曜日、時間はどうなるのか。専門部は支部から1名で、欠席の場合は代理なしでよいのか。

・承認行為はどうするのか。
・会費を納める人納めない人の問題は どうするのか。

・個人情報と名簿の関係は？

・通信費はどうするのか。

・生の声の届けるように議事録を取って常会へ回してほしい。

・会合欠席時に内容が分からないままにされては困る。連絡手段はどうするのか。

設立準備委員会では、住民のさまざまな意見や要望に答えられるように、説明資料を再検討して資料を追加することや、各区長が地区ごとに説明会を開催することなどを決定しました。

また、関係団体や機関の専門部への割り振りや、役員の選出方法なども検討されています。十王地区コミュニティ設立までには、まだまだ話し合わなければならない事が多く、準備委員の苦労が続きそうです。4月からの新たな住民主体のコミュニティ活動のスタートに、多くの不安と期待が交錯しています。

市民の活動拠点

22の交流センターが4月誕生

これまでコミュニティセンター、公民館、ふれあいプラザ等の名称で市民に親しまれ、活動場所となっていたこれらの館の名称が、4月から小学校区名をつけた交流センターに変わり、22館が誕生します。

この交流センターは、地域活動、生涯学習、介護予防等の地域福祉の拠点としての機能を十分に活かし、市民相互の交流の促進と地域の活性化に寄与することが期待されています。

詳細は各館の運営委員会で決められていきます。

まちも子どもも自分たちで守ろう！

市内の小学校区では学校、PTA、地域をはじめ多くの団体、機関が連携して、凶悪な犯罪から子どもたちを守ろうと活動をはじめています。

昨年全国で、一人で下校する小学生を狙った、凶悪な事件が度重なって発生しました。特別なところで起こったという事件ではないだけに不安になります。このような状況下で各地では様々な防犯体制がとられています。

日立市では26学区のうち、19学区で自警団や防犯ボランティアの人たちが、学校、PTA、地域、企業

グッズを身に着けたボランティアが、子どもを見守る姿を数多く見かけるようになりました。

仲町学区、宮田学区、中小路学区、会瀬学区の4学区では、年末年始には特別強化月間として、児童の下校に合わせ、警察をはじめ防犯サポーター、企業（日鉱、日立セメント、日立事業所など）、PTA、地域が連携して、児童を自宅近くまで送り



各種団体が話し合い

催され、各団体に安全確保への協力要請がされました。

学区の地図を使いチェックポイントで見守りの立哨をする人、子どもたちの下校時に合わせて「地域安全」の腕章を付けて庭の手入れや散歩、買物などを行い、地域の大人の目を光らせることによって、子どもたちを守る活動が続きます。

不審者や地域の情報のスピード化が図られれば、一層安全な地域社会づくりが進むことになります。自分たちのまちは自分たちの手で守る活動が、改めて見直される機会になっています。



子どもをガードして下校を見守る

など様々な団体と連携し、子どもたちの安全を守るために、それぞれの地域の特性を活かした、パトロールや見守りなどの防犯活動を実施しています。

特に小学生の登・下校時には防犯

届ける活動を実施しました。

継続的な防犯パトロールを行うために会瀬学区では、小学校主催で学区コミュニティ、地区防犯パトロール隊、老人会、婦人会、民生委員などの各種団体代表者による会議が開



防犯に企業も一役

だれにでも簡単にできるパトロール

●庭先パトロール

庭掃除や水やりを下校時間に合わせて、庭先に出て子どもたちを見守る。

●散歩パトロール

下校時間帯に散歩の時間を合わせて、下校する子どもたちを見守る。

●ピンポイントパトロール

ポイントに立ち子どもたちを見守る。より多くの目があり防犯効果絶大。

●ベランダパトロール

下校時間帯に洗濯を取り込むなど、

ベランダから子どもたちを見守る。速くまで見渡せて効果も絶大。

●なかよしパトロール

学校から各地区まで子どもたちと共に下校する。

●帰宅パトロール

勤務先から帰宅の際に子どもたちを見守る。車にステッカー掲示。

●買物パトロール

買物に行く際に子どもたちを見守る。腕章又は車にステッカーを掲示。

日立市コミュニティ推進協議会

茨城県共同募金会から顕彰される

第55回茨城県社会福祉大会の席上で、日立市コミュニティ推進協議会が、これまでの募金活動が認められ、共同募金運動奉仕団体として顕彰されました。

日立市では各学区コミュニティ組織が、昭和61年から自主的に取り組み、コミュニティ推進員や募金ボランティアの協力を得て、募金活動を展開しています。

コミュニティの環境活動

落書き・不法投棄・花いっぱい

自然環境や生活環境をよりよくするための活動を進める「環境部門コミュニティ推進者のつどい」は、平成17年度、22学区コミュニティ組織から推薦された代表者で実行委員会を構成しています。

この委員会では落書き防止対策、不法投棄対策、花いっばいの3つの重点項目を掲げて、各学区での取り組みや現状報告、活動の進め方などを話し合っています。

落書き防止対策



【桐木田市民広場脇橋桁】

まずは、J R線路沿い、高速道路橋脚などにアートの感覚で書かれている落書きの実態調査です。

落書きする者、それを消す人「消し隊」という図式ですが、どちらが根負けするか、推進員たちは精一杯取り組んでいます。各学区とも少ない予算の中から効果が得られる施策

諏訪梅林に「烈公梅」苗木の植樹

諏訪壮青年梅友会の結成35周年を記念して、水戸の六名木の一つである「烈公梅」の苗木1本と、「月影」1本を借楽園管理事務所から譲り受け、諏訪梅林に植樹されました。諏訪梅林は天保初年に烈公（徳川斉昭）が造園された梅林であることから、烈公の名前の梅の木の植樹は意義あるものとなりました。開花が楽しみです。

を重ね、できる範囲内で目的達成のために頑張っています。

隧道の壁に絵を描いたら落書きをされなくなったなどの成功例も報告されています。国道6号のガードレールに書かれた落書き消しは、交通事故など勘案すると危険が伴い、行政や各機関との連携が必要です。

不法投棄対策

依然として減少傾向にはなっていないようです。不法投棄監視員の目を潜り抜け投棄されています。自転車の乗り捨てなどもあり、その都度清掃センターへの持ち込みをしている現状です。常に監視員の方々とも情報交換をし、連携を密にしていきたいなまちづくりに取り組んでいます。



監視員の仕事に終わりなし

花いっぱい運動

各学区コミュニティにおいては、様々なアイデアを出し合い、日立



丈夫に育ちますように！

諏訪壮青年梅友会は、市の委託を受け諏訪梅林の草刈りなどの管理を行い、市民に親しまれる公園づくりをしています。



子どもたちも一緒に花植え！

市の花いっぱいコンクールにも参加して成果をおさめています。

道路や街路沿いの植木を除去（国土交通省の許可必要）し、代わりに花を植える事業に取り組んでいる地域もあります。学区内の各種団体と連携し積極的に花いっぱい運動を展開しつつあります。

私たちのまちは私たちの手で、小さな活動の積み重ねによって、きれいな住みよいまちを創っていきます。（実行委員長 大内十寸）

友好都市山辺町との交流さかん

平成16年5月に、日立市と友好都市提携をした山形県山辺



動物園で子どもたちが交流

町との交流が盛んに行われており、文化活動、産業分野、市民活動、スポーツ少年団活動などを通じた各種団体の相互交流が実施されています。

学区コミュニティからも多くの単会が訪問し、元気なまちづくりや総合型地域スポーツクラブ運営、福祉活動など多くのことを学ぶ機会となっています



コミュニティ推進協議会 単会リレー訪問

市内には小学校区をエリアにコミュニティ活動する団体が22あります。それぞれの地域の特色を活かしながら、住民と一緒に住みよいまちをつくるための活動を続けています。今回は助川まちづくり協議会を紹介します。

自分たちのまちは自分でつくる

～助川まちづくり協議会～

地区の特徴

助川学区は市の中心部に位置し、市役所や消防署、学校、保健、医療、福祉など様々な公的施設が整い、6号国道の山側には住宅団地が広がり、海側には商業、金融、娯楽などの施設が数多くあり、古くから市の中心市街地を形成してきました。

少子高齢化が進み、街はドーナツ化現象が進んでいますが、最近では高層マンションが目立つようになり、新しい住民の流入も見られます。

古くから住民のつながりが強くまちづくり活動に結束して取り組む地域がある反面、住区によって、様々な職業や生活様式、価値観を持つ人々が混住し、コミュニティ活動を進めるのが難しい面もあります。

会の構成

会長の下に事務局が置かれ、調査・広報部、環境美化部、文化部、体育部、防災部、青少年対策部の6専門部で本部活動をしています。さらに街区制別で15の支部が置かれ活動を進めています。数沢川をきれいにする会（河川愛護）、もみじば楓を守る会（道路愛護）などの地域内にある住民の自主的な活動に対する援

助体制も整えています。

会の特色ある活動

平成5年に4階建てのコミュニティセンターができ、これを活動拠点



学校と地域合流運動会

として特色ある活動を展開しています。総会ではコミセンの完成記念に作られた「助川賛歌」が歌われ、毎年コミセンの利用団体で行う芸能大会は、楽しい心豊かなまちづくりに役立っています。

環境に関する意識も高く、数沢川をきれいにする会の活動には地元の会社と住民とまちづくり協議会が協力して河川清掃を実施しています。助川学区が国道245号線の起点となっていることから学区内の245号線沿いの花壇整備をしています。

助川学区の活動で最も盛大に行われてきたのが助小学区大運動会です。かつては3,000人規模で行われましたが、高齢化や人口減などで規模を

維持することが難しくなってきました。児童数の減少に悩む助川小学校と十分に協議し小学校の教育理念を尊重しながら、平成15年から小学



熱がこもった演芸風景

校の運動会に合流しました。互いを補い合いながら運動会を実施することで学校と地域の連携を図り、子どもと大人の相互理解を深めるためのよい機会になっています。

今後の展望

助川学区では平成18年度から実施するコミュニティプランの作成に取り組んでいます。永井会長や青山事務局長によると、住民がもっと主体的に取り組める組織づくりをすす



245号線の花壇

め、アンケートで要望の多かった住民の健康づくりや学区内の桜の保護活動など新たな活動にも力を入れて行きたいとのことでした。



会長 永井 久善
事務局 助川コミュニティセンター内
TEL 23-0955
世帯数 4,319戸
人口 9,511人
(平成17年6月1日現在)